

令和7年産 ぶどう（大粒種）栽培こよみ（家庭果樹用）

*産直店舗へ出荷される方は、部会・産直部会用のこよみを使用してください。

産直部会用と家庭果樹用のこよみの農薬を併用すると、使用基準の違反・出荷停止の恐れがあるので注意してください。

JA尾張中央 営農指導課

時期	生育/管理	使用日	対象病害虫	RAC コード	薬剤名 濃度 (収穫前日数/回数)	水100ℓ 当たり薬量	肥料名	1㎡あたり 施用量
9月	収穫後	/					グリーンアタック 14・8・10	20g
11月	(中旬)	/	ブドウトラカミキリ	1B	トラサイドA乳剤 200倍 (発芽前/2回(休眠期))	500ml		
12月	休眠期	/					FTE有機配合866 又は	50g
3月	発芽前	/	黒とう病 晩腐病	1	(展着剤加用) ★ベンレート水和剤 200倍 (休眠期/1回)	500g	園芸有機A801号888	
4月		/	黒とう病	3	(展着剤加用) ★トリフミン水和剤 2,000倍 (7日/3回)	50g	◎記載の肥料が無い場合には窒素成分が 同じくらいの肥料を施用してください。 休眠期の12月に有機質肥料又は発芽前 の3月に化成肥料を、果実肥大期の6 月・収穫後の9月に化成肥料を施用して ください。	
			コガネムシ類	3A	(展着剤加用) ★アディオ水和剤 2,000倍 (7日/5回)	50g		
5月	開花期 (中旬)	/	黒とう病 灰色かび病	2	(展着剤加用) ★ロブラール水和剤 1,000倍 (開花期～幼果期 但し60日前まで)	100g	参考 <有機質> ネオフルミックス(8・7・6)	
			チャノキイロアザミウマ カイガラムシ類	9B	(展着剤加用) ★コルト顆粒水和剤 3,000倍 (前日/3回)	33g	<化成> グリーン化成444(14・14・14) 園芸化成(園芸特1号)(14・8・13)	
6月	袋かけ前	/	黒とう病 晩腐病	MO3	(展着剤加用) ★ジマンダイセン水和剤 1,000倍 (45日/2回)	100g	グリーンアタック 14・8・10 (開花後)	20g
			チャノキイロアザミウマ コナカイガラムシ類 カメムシ	4A	(展着剤加用) ★スタークル顆粒水溶剤 1,000倍 (前日/3回)	100g		
	袋かけ後	/	黒とう病 晩腐病	MO4	(展着剤加用) オーソサイド水和剤80 800倍 (30日/3回)	125g		
			チャノキイロアザミウマ コナカイガラムシ類 カメムシ	4A	(展着剤加用) ダントツ水溶剤 2,000倍 (前日/3回)	50g		
7月		/	黒とう病 晩腐病	11	(展着剤加用) ストロビードライフロアブル 3,000倍 (14日/3回)	33g		
			アザミウマ類 コガネムシ	3A	(展着剤加用) アーデントフロアブル 2,000倍 (前日/4回)	50ml		

(備考)

*5割ぐらいのリスクを考えた場合の、防除指針です。

*RACコードの活用により、薬剤抵抗性をつけないよう、違う記号の農薬でローテーション防除をしましょう。

*★は、防除をした方がよい時期です。

*薬剤を混合する場合、原則 展着剤→乳剤→フロアブル→水和剤の順に混ぜる。

*防除薬剤には、展着剤（アグラール：水100ℓ当り10cc）を最初に混ぜてください。

※トラサイドA乳剤は令和8年に製造・販売中止予定です。使用期限まではラベル記載の登録が有効ですが、使用期限を過ぎると使用できなくなります。

①開花後は果粒が汚れるので、展着剤は使用しない。

②べと病等の病気の発生した果実、落葉等を放置しておく、病原菌の越冬場所となるので穴を掘って埋めるなど適切に処分する。

③黒とう病は、枝、巻きづる、果梗枝に病斑を形成するので、整枝せん定時に除去する。

④房への病害の感染防止のため、袋かけは6月中旬には終わるようにする。

⑤べと病が発生したらレーバスフロアブル2,000倍（7日/3回）（RACコード40）を散布する。

*施肥基準の作成にあたって、生産部会、産直部会、愛知県施肥基準を参考にしました。

目標収量（1,200kg）、窒素成分（10kg）、成本本数（10本）で施肥設計しました。

基肥として、12月なら緩効性・3月なら速効性肥料を施用してください。

なお、園地観察・収量・土壌診断結果を参考に適正な施肥を行ってください。

令和6年10月作成